

わがまち、未来へ

日本伝統の提灯で 外国人に「成田の夜」を

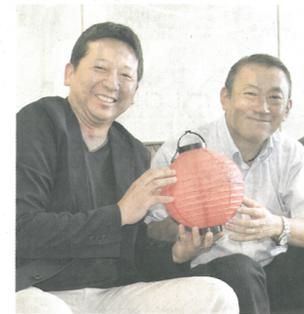
成田山新勝寺の参道で24日、成田国際空港周辺のホテルに宿泊するなどしている外国人旅行者を対象にしたイベント「成田山ランタンフェスティバル」が始まった。外国人旅行者に夕方から夜にかけてランタン(提灯)「ちょうちん」を持って参道

を散策してもらい、協賛店が用意した特典で「成田の夜」を楽しんでもらおうという試みだ。同ホテルは新勝寺参道周辺の有志がタッグを組み初めて実現。イベントの担当者は「地域の盛り上げに役割したい」と意気込む。

設置。「成田山」の3文字や名前を筆で提灯に書き込むなどしてもらおう。その後、参加者は提灯を持って参道を自由に散策。飲食店や土産物店など約25の協賛店舗の店頭には目印のステッカーが張られ、立

ち寄った際に提灯を見せる

のプレゼントなどのサービスを受けられる。また成



「成田山ランタンフェスティバル」を中心に準備しに宇川さん(右)と下田さん

町並みにびびったり

イベントの発端になったのは、空港近くの「マロウドインタナショナルホテル成田」総支配人、早川康一さん(55)を中心にした集まり。千葉市パウンド促進協議会も務める早川さんが昨年、参道にあるペーカリーカフェ「ばん茶屋」のオーナーエフ、下田真吾さん(46)らとイベント「成田山ランタンフェスティバル」の取り込みを話し合っていた際、日本伝統の提灯を使うアイデアが浮かんだ。

成田山参道でランタンフェス

だった。扇子やつわの案も出たが、早川さんは提灯は参道を明るく照らして町が華やかへ。下田さんも「提灯は町並みの雰囲気を延ばすきっかけになる」と賛同した。成田市も協力。提灯は市が準備することになった。

SNSにアップを



ボランティアのアドバイスを受けながら、赤い提灯に「成田山」や書き込みランタンフェスティバルの参加者ら。24日午後5時ごろ、成田市

本音トークで実現

空港周辺のホテルと参道の商店街。これまでそれぞれが観光PRを行い、手を組む機会が少なかったという。早川さんは、羽田空港の国際化が進む中で、成田を目的にした観光を増やす必要がある。到着や出発前だけでなく、成田にもう泊り宿泊する理由として新勝寺や参道は魅力的な観光資源と打明ける。

訪日客呼び込みの起爆剤に

提灯は夜道に映え、中国などで盛り上がりいと言われる赤色。イベントはLEDを使い、メンバー参加費折り込んで土産にもなる。イベント期間は、成田名物にして代表的な日本食の一つ「うなぎ」を外国人にアピールしようと、夏の用の丑の日前後に合わせ毎年開催しては「成田のなま祭り」に合わせた。

緑起のいい赤色で

▲浴衣姿のボランティアと外国人観光客ら



提灯を下げて新勝寺参道を散策する外国人観光客グループ



ランタンフェスティバルの協賛店舗に貼られたステッカー

◆主催 成田山新勝寺参道有志

◆後援 成田地区ホテル業協会有志、成田市、成田国際空港(NPO)法人 Samurai Meetups、Orange(株)、東海技研(株)、成田航空ビジネス専門学校、成田トランジット&ステイボランティア、伊藤園(株)ほか

「成田山」の3文字や名前を筆で提灯に書き込むなどしてもらおう。その後、参加者は提灯を持って参道を自由に散策。飲食店や土産物店など約25の協賛店舗の店頭には目印のステッカーが張られ、立ち寄った際に提灯を見せるのプレゼントなどのサービスを受けられる。また成田市の観光PRを行い、手を組む機会が少なかったという。早川さんは、羽田空港の国際化が進む中で、成田を目的にした観光を増やす必要がある。到着や出発前だけでなく、成田にもう泊り宿泊する理由として新勝寺や参道は魅力的な観光資源と打明ける。一方、下田さんは「参道も外国人観光客が増えてきたが、商売に結びついていない。各店舗の若手経営者の中には危機感が出てきており、起爆剤にイベントがほしい」と話した。これまで空港周辺は遠い存在と感じ